

西谷地区における
教育環境の適正化について

<意見書>

令和6年(2024年)8月16日
西谷地区学校づくり検討委員会

目 次

第1章 西谷地区学校づくり検討委員会の設置	2
1 西谷地区学校づくり検討委員会の設置	2
2 本委員会の位置付け	2
3 本委員会の構成	3
第2章 西谷地区における教育環境の適正化に向けた取組について	4
1 西谷小・中学校の現状	4
2 西谷地区における学校規模適正化への検討	5
3 地域、保護者への説明と意見聴取	6
第3章 本委員会における結論	7
資料	8

第1章 西谷地区学校づくり検討委員会の設置

1 西谷地区学校づくり検討委員会の設置

西谷小学校は明治6年(1873年)10月開校で、昭和30年(1955年)3月に西谷村が宝塚市に編入されたことで、宝塚市立西谷小学校が誕生しました。当時は、北に上佐曽利分校、南に切畑分校がありましたが、昭和32年(1957年)3月に上佐曽利分校、昭和37年(1962年)3月に切畑分校が廃止されて本校に統合となり、今では近隣に統合や校区変更によって通学できる学校がありません。

現在残っている資料では、昭和33年度(1958年度)の西谷小学校の児童数は553人で全14学級でしたが、平成9年度(1997年度)には児童数187人で全学年1学級となりました。さらに、令和4年度(2022年度)には児童数60人で、2学年で1学級を構成する複式学級が始まるなど、他校と比べて小規模化が著しい状況です。

子どもの数の少ない状況は、子ども同士の切磋琢磨する機会の減少や人間関係の固定化、学校において一定規模の集団を前提とした教育活動やその他の活動(学校行事や部活動)の成立が困難など、教育効果にさまざまな影響を及ぼすことが懸念されます。

そのため、複式学級が始まった令和4年(2022年)11月の学校運営協議会において、市教育委員会も交え、小規模校において有効な取組や目指すべき方向性について考えていくために学習会を行いました。今後も西谷小・中学校の児童生徒数が減少していくことが予想される中で、地域や小・中学校園の保護者、学校関係者も交えて、早急に子どもたちの教育環境を良くしていくための検討が必要であることを確認しました。また、西谷小・中学校の小規模化の現状把握と義務教育学校や特認校制度の理解について、保護者や地域と共通理解を図るため、説明会等を行っていきことが決まりました。

そして、令和5年(2023年)3月にまちづくり協議会主催で、西谷地区の教育環境をどのように良くしていくかをテーマにした地域・保護者・市教育委員会による意見交換を、8月には、まちづくり協議会・西谷小・中学校 PTCA・西谷認定こども園 PTA・市教育委員会共催で、保護者や地域を対象に、「みんなで考える西谷の学校」と題し、今後の西谷地区の学校の在り方について考える会を開催しました。

説明会等にあった義務教育学校や特認校制度について、具体的な検討を進めるにあたって、地域・保護者・学校・市教育委員会で継続的な議論が必要なことから、市教育委員会に対し、検討をする場を設けることを要請し、令和5年(2023年)11月に「西谷地区学校づくり検討委員会」(以下「本委員会」という。)が設置されました。

2 本委員会の位置付け

本委員会は、地域・家庭・学校・行政との協働・共創の視点をもって、西谷地区の特色を活かした教育の推進など、西谷小・中学校だからできる魅力ある学校づくりについて検討を行い、検討した内容を意見書としてとりまとめ、市教育委員会に提出することを目的とした委員会です。

3 本委員会の構成

西谷地区における地域・家庭・学校が連携と協働をもって、子どもたちの教育に携わる必要性を重視し、幅広い検討が必要であることから、地域代表、保護者代表、関係団体代表、学校園とで、本委員会を立ち上げました。構成員は以下のとおりです。

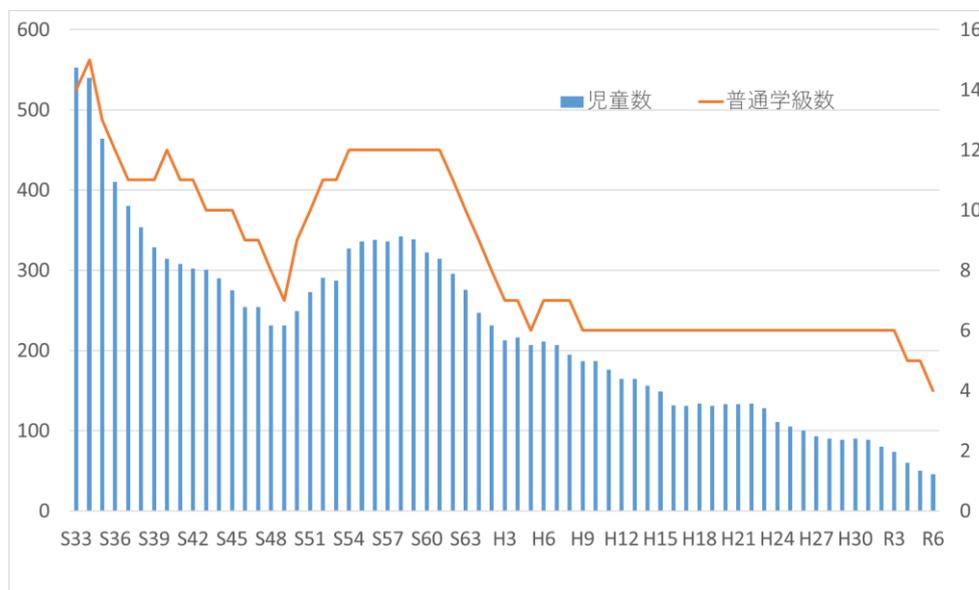
区分	所属名
地域代表	西谷地区まちづくり協議会 会長
	西谷地区まちづくり協議会 副会長
	西谷地区連合自治会 会長
	西谷地区連合自治会 副会長
保護者代表	西谷小中学校 PTCA 会長
	西谷小中学校 PTCA 副会長
	西谷認定こども園 PTA 会長
	西谷認定こども園 PTA 副会長
関係団体代表	西谷小中学校運営協議会 委員長
	西谷中学校区青少年育成市民会議 委員長
	西谷地区老人クラブ 会長
	第7地区主任児童委員 代表者
	西谷地区まちづくり協議会 未来の学校を考える部会 部会長
	西谷地区まちづくり協議会 未来の学校を考える部会 副部会長
学校園	西谷認定こども園 園長
	西谷小学校 学校長
	西谷中学校 学校長

※ 事務局：宝塚市教育委員会（教育環境整備課、学校教育課）

第2章 西谷地区における教育環境の適正化に向けた取組について

1 西谷小・中学校の現状

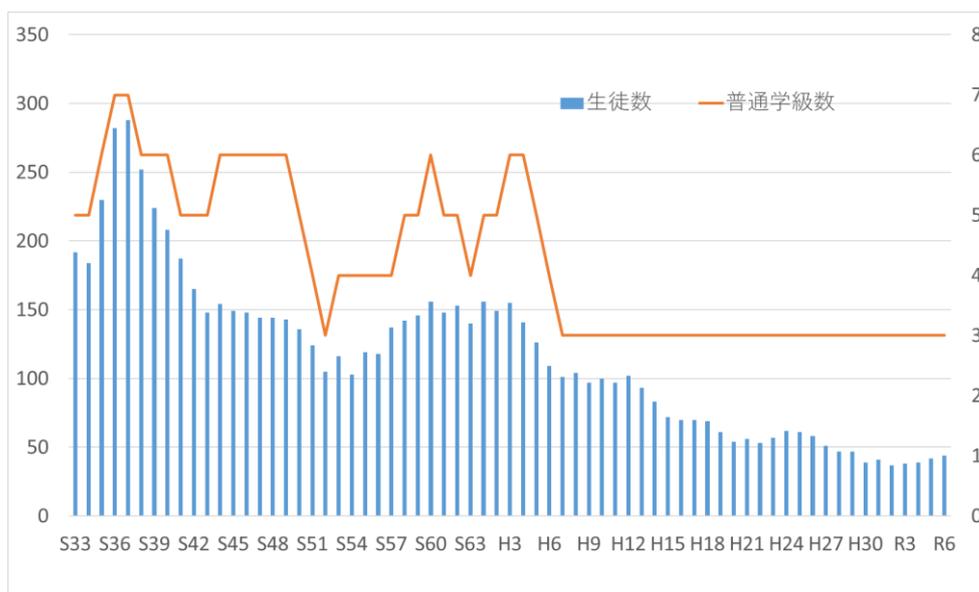
(1) 西谷小学校の児童数・学級数の推移



昭和58年度(1983年度)以降は少子化の影響で減少の一途を辿り、平成9年度(1997年度)には児童数が187人で全学年1学級となり、クラス替えのできない状況となりました。令和4年度(2022年度)には児童数が60人まで減り、2・3年生で構成する複式学級が始まりました。

令和6年度(2024年度)には児童数が46人まで減少し、2年生から5年生まで複式学級が拡大し、令和7年度(2025年度)には全ての学年が複式学級となる見込みです。

(2) 西谷中学校の生徒数・学級数の推移



西谷小学校と同様に少子化の影響で減少の一途を辿り、平成7年度(1995年度)には生徒数が101人で全学年1学級となりました。令和6年度(2024年度)には全生徒数44人で微増ではありますが、西谷地区における人口構成からも減少する見込みです。

2 西谷地区における学校規模適正化への検討

(1) 宝塚市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置の考え方

宝塚市では、平成28年(2016年)に「宝塚市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を策定しており、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばすために、一定の児童生徒数や学級数が必要であることや、人間関係を序列化、固定化しないよう、各学年でクラス替えの必要性、部活動の選択肢を用意する必要などを掲げています。

また、1学年複数学級とすることで、教員同士が指導方法について協議ができ、また、組織的な校務分掌も確保され、教員が互いに切磋琢磨するために必要な教員数を確保する必要があるとしています。

一方で、西谷小・中学校は、過去、分校を廃校してきた経過や田園集落地域で近隣に小学校及び中学校がないことから、学校統合や校区変更は難しいため、適正化の対象外とし、特認校や義務教育学校など、学校の特色について研究を進めることとしています。

(2) 本委員会における検討結果

本委員会は、令和5年(2023年)11月から令和6年(2024年)6月までに5回開催し、検討を重ねてきました。

1回目は、本委員会の設置要綱を基に、西谷地区特有の定住人口の増加や公共交通の問題は直接的な教育の問題ではないことから、本委員会の議題からは切り離し、小規模化が進んで複式学級となる西谷小・中学校の教育環境について議論することを参加委員で確認しました。

2回目は、西谷地区の子どもたちの「強み」と「弱み」について意見交換を行いました。「強み」も「弱み」も共に児童生徒数が少ないことが起因となるもので、「強み」は、学校生活や学校行事で一人ひとりに活躍の機会があるほか、異学年交流もあり、仲間思いであるという意見がありました。また、伝統行事の教育活動において、地域の方からの支えがあるため、教育資源として地域を活用することができるという意見もありました。「弱み」については、チームスポーツの経験が少ないことや地域外との交流経験が少ないことによる高校ギャップがありました。

3回目は、2回目の会議で出た意見を踏まえて、西谷地区が目指す今後の教育の方向性について、本委員会だけでなく、傍聴者も含めたグループワークを行いました。このグループワークにおいて、西谷小・中学校を小規模でもその魅力を引き出せるような特色ある学校としていくことで、委員全員が一致しました。こうした特色を活かして、児童生徒数を増やすために校区外からも子どもたちを受け入れる特認校制度の検討を進めていくことでまとまりました。

4回目では、小規模で特認校制度を実施している自治体の事例研究など理解を深めました。また、特認校制度の実施時期については、可能な限り早期に取り組むこととし、さらに保護者や地域団体に特認校制度実施に向けた方向性で検討していることを説明し、意見を募る場が必要ということで、関係団体と日程調整を行い、市教育委員会に説明をしてもらいました。

5回目では、これまでに開催した説明会で出た意見の検証を行いました。その結果、特認校制度の導入に慎重な意見等はなかったことを確認したため、本委員会で特認校制度の導入に向けて意見書を作成していくことで意見がまとまりました。

3 地域・保護者への説明と意見聴取

(1) 説明会等の実施状況

ア 保護者

対 象	実施日	参加者数
西谷小・中学校 PTCA 総会	令和6年(2024年)4月26日	33人
西谷地区の小・中学校、こども園の保護者	令和6年(2024年)6月19日	13人

イ 説明動画の配信

配信期間	視聴回数
令和6年(2024年)6月20日～7月10日	約20件

ウ 意見質問募集 Web フォームの公開

公開期間	回答数
令和6年(2024年)6月20日～7月10日	4件

エ 地域

対 象	実施日
西谷地区連合自治会 定例会	令和6年(2024年)7月17日
西谷地区まちづくり協議会役員会 定例会	令和6年(2024年)6月27日

オ 地域の広報誌への掲載

広報誌名	発行日
自治会連合会だより	令和6年(2024年)7月17日
西谷コミュニティだより	令和6年(2024年)7月31日

カ 教職員説明会・意見交換会日程

対 象	開催日
西谷小・中学校職員	令和6年(2024年)6月19日
西谷小学校職員	令和6年(2024年)7月10日

(2) 説明会等における地域や保護者からの主な意見

ア 特認校制度導入に関する意見

- ① スクールバスを走らせてほしい(園児まで乗れるようにしてほしい)。
- ② 補助があれば通ってくれる子どもが増えると思う。
- ③ 制度導入にあたって、西谷小・中学校の子どもたちの不安や意見をしっかりと聞いて取り入れてほしい。また、大人たちが話し合って導入したというよりも、子どもたちが主体的に関わり、この制度を導入したというようなことができれば、子どもたちも自分たちの学校に誇りを持つてると思う。
- ④ 複式学級が解消できるとよい。

イ 現状の課題に関する意見

- ① 同学年に同性がいないため、宿泊行事を2学年合わせて行ってほしい。
- ② 部活動の選択肢や体育授業での人数不足による実施競技の制限をなんとかしてほしい。
- ③ 高校に進学する時のギャップが大きく、他校の子どもとの交流を増やしてほしい。

ウ その他の意見

- ① 西谷認定こども園にもっと人を呼び込めたら、小・中学校の通学にもつながると思う。
- ② 自分たちの学校に誇りを持ってもらえると良い。
- ③ 少人数であることを魅力的に伝えてほしい。
- ④ 複式学級の魅力もあるので発信すればよい。

第3章 本委員会における結論

西谷地区においては、近隣には統合や校区変更によって通学できる学校が存在しないことから、市内のどこからでも通学できる小規模特認校制度により、児童生徒数の増加を図るべきであるとの結論に至りました。

この制度により、大幅な児童生徒数の増加は見込めませんが、小規模校であっても複式学級の解消や一部であっても小規模校における課題の解消は期待できます。

西谷小学校では、既に2年生から5年生までの4学年で複式学級として運営しており、さらに、来年度の新1年生の入学見込み者数が1人であり、全学年で完全複式学級になる見込みであることから早急な対応が必要であるとの意見で一致しました。

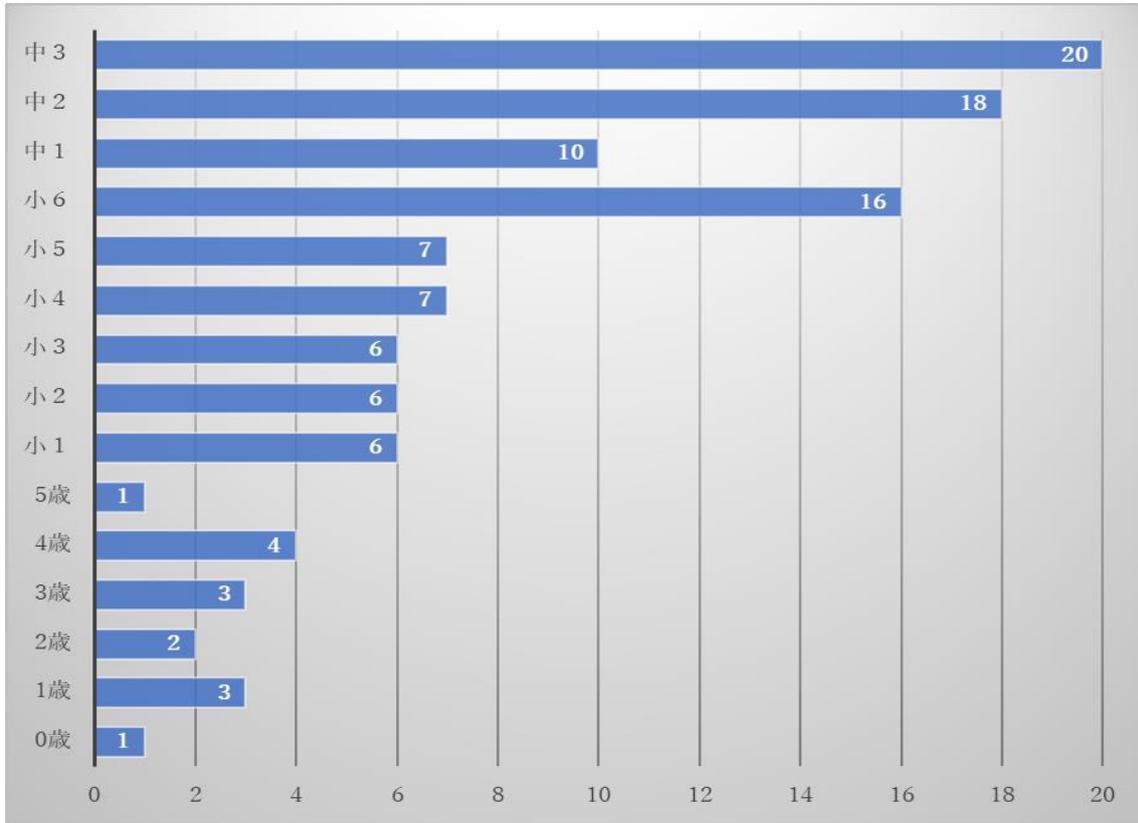
また、以下の項目について、本委員会の委員や説明会時に保護者から出た意見であるため、今後取組を進めるにあたっては、留意するようお願いします。

- ① 西谷地区外からの子どもたちが西谷小・中学校で学びたくなるような、西谷の資源を活かした魅力ある教育活動の充実に努めてください。
- ② 西谷小学校では、現在、一部の学年において複式学級で運営しており、入学する児童数の増減によっては、その運営も変更する可能性があります。学校現場に過度な負担がかからないように、教職員の意見も聞いて取り組んでください。
- ③ 西谷地区外からの子どもたちが西谷小・中学校まで通学するためには、通学手段の確保が課題ですが、既に西谷小・中学校に通学している児童生徒に対して実施しているバス定期券補助の検討をお願いします。

資料

1 西谷小・中学校の現在

(1) 令和6年(2024年)5月1日現在 西谷地区学齢人口 (住民基本台帳より)



(2) 令和6年(2024年)5月1日現在 校園在籍数

西谷認定こども園

学年	保	幼	計
0歳	0	-	0
1歳	2	-	2
2歳	3	-	3
3歳	4	0	4
4歳	3	1	4
5歳	4	1	5
合計	16	2	18

西谷地区外

0
0
1
1
1
4

西谷小学校

学年	男	女	計
1年	2	4	6
2年	8	0	8
3年	4	1	5
4年	5	2	7
5年	0	5	5
6年	10	5	15
合計	29	17	46

西谷中学校

学年	男	女	計
1年	5	5	10
2年	7	8	15
3年	9	10	19
合計	21	23	44

2 西谷学校づくり検討委員会の開催状況

年月日	協議内容等
第1回 令和5年(2023年) 11月21日	① 本委員会の設置目的の確認。 → 本検討委員会では、子どもの教育活動や教育環境を中心に協議・検討していく場であることを確認
第2回 令和6年(2024年) 1月16日	① 西谷地区の学校園の現状を説明。 → 令和7年度(2025年度)に完全複式学級になる見込み。 ② 西谷の子どもたちの「強み」と「弱み」について意見交換を実施。
第3回 令和6年(2024年) 3月4日	① 次年度のロードマップの確認。 → 令和6年度(2024年度)中に意見書を市教育委員会に提出。 ・令和7年度(2025年度)は取組実施に向けた具体的な準備。 ・令和8年度(2026年度)より取組実施。 ② 「西谷の教育がこうなしてほしい」をテーマにグループワークを実施。 → 委員・事務局の参加者で3班に分かれて、意見を出し合った。各班で出た意見を取りまとめて、以下の2点の方向性で検討していくと決定。 ア 西谷小・中学校を小規模ではあっても、地域性を活かした特色ある教育ができる学校としていきたい。 イ 学区外からの就学も可能とし、西谷小・中学校の児童生徒数を増やしていきたい。
第4回 令和6年(2024年) 5月20日	① 本委員会としては、小規模特認校導入の方向性で進めていきたい。 ② 導入時期については、当初予定より早めて令和7年度(2025年度)からの導入を目指し、スケジュールを引き直したい。 ③ 方向性を決定する前に、まずは保護者や地域団体に説明し、意見を募る場を早急に設けるよう、各団体と調整し、次回会議も早めて6月に行うこととする。
第5回 令和6年(2024年) 6月27日	① 保護者対象の説明会・意見交換会を実施し、概ね賛成である旨が確認できた。 ② 本委員会としては、全会一致で、令和7年度(2025年度)実施に向けて意見書をまとめていく。

3 西谷学校づくり検討委員会 委員名簿

区分	所属	氏名	
		令和6年度	令和5年度
地域代表	西谷地区まちづくり協議会 会長	二井 久和	
	西谷地区まちづくり協議会 副会長	塗家 昭彦	
	西谷地区連合自治会 会長	平井 清文	
	西谷地区連合自治会 副会長	福田 博文	
保護者代表	西谷小中学校PTCA 会長	中西 瞳	田中 智春
	西谷小中学校PTCA 前会長	田中 智春	-
	西谷小中学校PTCA 副会長	塩見 柄梨子	石井 光恵
	西谷小中学校PTCA 前副会長	石井 光恵	-
	西谷認定こども園PTA 会長	辰川 雅代	福永 祐子
	西谷認定こども園PTA 前会長	福永 祐子	-
	西谷認定こども園PTA 副会長	段 彩子	山本 里恵
関係団体代表	西谷小中学校運営協議会 委員長	二井 由紀美	
	西谷中学校区青少年育成市民会議 委員長	今北 さゆり	
	西谷地区老人クラブ 会長	福井 仁	小中 和正
	第7地区主任児童委員	稲葉 里実	
	西谷地区まちづくり協議会 未来の学校を考える部会 部会長	新林 智子	
	西谷地区まちづくり協議会 未来の学校を考える部会 副部会長	岡本 直子	
学校	西谷認定こども園 園長	山本 直子	
	西谷小学校 学校長	橘 俊一	
	西谷中学校 学校長	筒井 啓介	